

## 実践記録(小3・体育)

### 1 ねらい

タブレットPCを使って撮影した演技を、示範動画と見比べることで、客観的に見た自分の演技の、課題を見付けることができる。

### 2 活用したICTと場面

#### (1) プロジェクターを使って、示範動画を体育館のステージに映す

自分が確認したいときに、いつでも示範動画を見ることができるようにした。友達演技に対して助言をする際も、示範動画があると、積極的な活動につながると考え、体育館のステージに継続して映した。

#### (2) タブレットを使って、演技を撮影する

自分の演技を客観的に見るために、動画の撮影が効果的であると考え、実践した。タブレットPCを使うことで、簡単に録画やスロー再生をすることができる。また、周りの友達と一緒に友達の演技について考えることができるという点でも、タブレットPCが優れていると考えた。



### 3 実践の様子

タブレットを使って児童の演技を撮影した後、手や尻の位置など、後転のポイントとなる場面で一時停止をし、示範動画と見比べながら、どうすればもっと美しい後転になるのかをグループの友達と話し合った。児童は、「両手の力が一緒じゃないから、曲がっちゃうのかな」と友達に伝えたり、「手本の動画と比べて、手が曲がっているね」と美しい後転ができない理由を考えたりして、自分の演技だけでなく、友達の演技に対しても積極的に助言する姿を見ることができた。



### 4 成果と課題

- 能力別に分けずに練習を行い、撮影した後転の演技をグループ全員で話し合わせたことで、演技の様子を客観的に見て自身の課題を知ることができただけでなく、後転が苦手な児童も、後転が得意な児童から助言をもらい、意欲的に練習しようとする姿を多くみることができた。
- タブレットPCで自身の演技を見て、課題を見付けることはできたが、その後、どれだけ改善できたのかを客観的に見る機会がなかったため、上達の乏しい児童が見られた。連続して撮影をし、どれだけ上達したかを確認させる必要があった。